

岡崎地区大規模雨水処理施設整備事業 事業計画

(様式1)

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>雨水矢羽根第1-1幹線は、伊勢原駅周辺の矢羽根川流域地区約352haを流域に抱える雨水幹線です。伊勢原市公共下水道事業計画（以下、下水道事業計画）に位置づけている矢羽根川橋上流側は、5年確率降雨 51.1mmで整備している一方、矢羽根川橋から下流側は農業用排水路として整備されているため、下水道事業計画と比較すると断面が約35%不足している状況です。このようなことから矢羽根川橋から下流側を、令和3年度に下水道事業計画に位置づけ事業を進めています。また、内水浸水シミュレーションによる浸水面積は約31.6haとなり、集中豪雨時には、床上浸水被害等も発生しています。</p> <p>さらに矢羽根川流域地区は、小田急小田原線伊勢原駅や小中学校等の都市機能が集積しており、地域防災計画に位置づけられた施設（緊急輸送路）も存在するため、都市機能確保及び個人財産の保護の観点から、早急な浸水対策が求められています。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画における照査降雨：80.5mm/hr ・ 目標とする理由：平成 25 年 4 月 6 日の集中豪雨時に伊勢原市内で観測した既往最大降雨 ・ ハード整備による整備水準の目標：51.1mm/hr(5年確率降雨) <p>② 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 都市機能の確保の観点：交通の支障となる道路冠水を軽減します。 ii) 個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を軽減します。 <p>③ ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> i) ハード対策 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備により5年確率降雨（51.1mm/hr）において浸水被害を軽減することを目的として函きょ整備を実施します。 また、照査降雨(80.5mm/hr)においては交通の支障となる道路冠水を軽減します。 ii) ソフト対策及び自助 <ul style="list-style-type: none"> 施設整備で対象となる降雨量を上回る想定最大規模（152.9mm/hr）に対して、内水ハザードマップの公表などの情報提供、および地域住民等による土のうの設置などにより、被害を最小限にとどめます。

項目	内容・施策等			
内水ハザードマップ策定状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有 (令和4年3月策定済み) ・ 策定予定 (令和 年 月末策定予定) 			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨水函きよの整備延長 1.34km w=4.9m~5.4m、h=2.4m ・ 雨水監視カメラの設置
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当無し
		ソフト対策	下水道管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内水ハザードマップの公表 ・ 降雨情報の収集 ・ 土のう提供 ・ 雨天時に巡回点検の実施
			下水道管理者以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土のう提供 ・ 雨天時に巡回点検の実施 ・ 伊勢原市行政メール配信サービスの実施 ・ 防災行政無線の放送
	自助	ハード対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各戸土のう配備 ・ 雨水抑制施設の設置 	
		ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伊勢原市災害時要援護者避難指示計画に基づく地域における共助による避難支援 	

備考) 事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

* 下水道浸水被害軽減総合計画に基づき実施している事業の場合、既存の施設調書を添付すること

年度計画 (百万円)

名称	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	計
雨水管渠	100	420	364	600	716	400	400	3,000
計	100	420	364	600	716	400	400	3,000

備考) 事業内容に位置づけた施設について年割額 (事業費) を記述。

整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<ul style="list-style-type: none"> 雨水矢羽根第 1-1 幹線を 51.1mm/hr で整備することにより 20cm 以上の浸水面積を 31.6ha から 23.5ha へ 8.1ha 軽減します。
放流先河川との調整状況	<ul style="list-style-type: none"> 本施設の放流先は神奈川県で管理している新川支線排水路となります。下水道事業計画に位置づけを行った際、放流地点での計画流出量を 30.245 m³/s として変更協議を了しています。 放流先である新川支線排水路の計画は、許容放流量 29.981 m³/s となっていることから、引き続き協議を行っていきます。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 矢羽根川流域地区の主な調整池として東大竹雨水調整池（貯留量 5,160 m³）や千津ふれあい公園（東大竹区画整理）（貯留量 5,800 m³）の整備を実施しています。